

作並小学校における地域説明会ニュース

平成30年 6月21日
仙台市教育局学校規模適正化推進室

説明会の様子をご紹介します

教育委員会では、作並小学校の児童数の減少が著しい状況にあることから、これまで子供たちの様子や地域にとっての学校の役割などについて、保護者や町内会役員の皆様と10回以上にわたり意見交換を重ねてまいりました。

去る5月20日（日）の説明会は、広く地域の皆様にも現在の子供たちが置かれている状況などを知っていただくために開催し、32名の方に出席していただきました。当日の説明会の様子について、作並小学校区にお住まいの皆様にお知らせいたします。



平成30年5月20日（日）10：00～11：30
会場：作並小学校体育館

1. 教育委員会からの説明

（1）作並小学校の子供たちのために

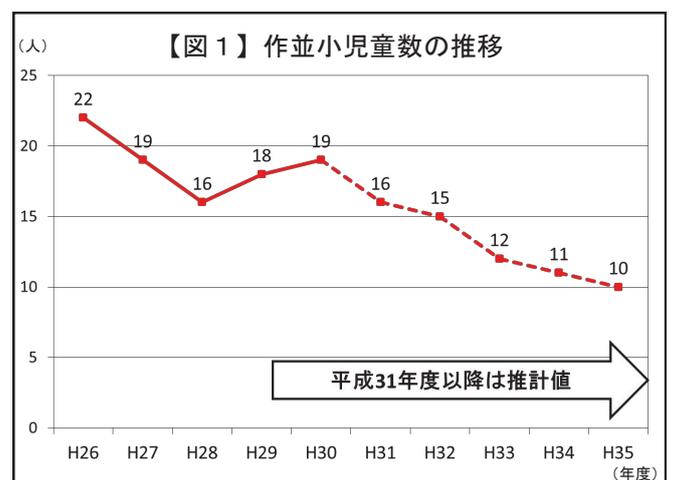
教育委員会では、子供たちにとってより良い教育環境となることを第一に考えて、保護者や地域の皆様とともに、これからの学校のあり方を検討してまいります。

以下は、児童数の推移やこれからの子供たちに求められる力、現代の子供たちが置かれている状況等について、教育委員会からご説明した内容の一部です。

作並小学校の児童数

作並小学校の児童数は、昭和58年度（市内児童数が最多の年度）の149人から、平成30年度は19人と、9割近くの減少となっています。

図1は、作並小学校の平成26年度から30年度までの児童数の実数、及び平成31年度から35年度までの推計を示したグラフです。児童数は、更に減少の見込みです。



「生きる力」を身につけるための教育

現在、全国の学校では、子供たちが「生きる力」を身につけられるような学習に取り組んでいます。「生きる力」を身につける学習とは、以下の三本柱で構成されます。

- 確かな学力を身につけること
- 様々な意見や考え方があること知り、思考力や判断力、表現力を身につけること
- 多様な人間関係の中で協調性や社会性を身につけること

昭和から平成への移り変わりの中で、社会は大きく変化しています。現在の学校教育は、予測困難な現代社会に対応できるように「生きる力」を育んでいくという役割を担っています。

しかし、児童数が減少し、小規模化した学校では、同年代の児童の様々な意見を聞いたり、多様な人間関係の中で社会性を身に付けたりすることが難しくなります。

子供たちをめぐる社会的変化

子供たちを取り巻く環境も大きく変化しています。

昔は、子供たちの周りに遊べる友達が沢山いました。

現在は、多くの児童がスポーツ少年団や塾、習い事に通い、遊べるときはゲームなどを行っています。

しかし、郊外の地域の子供たちは、習い事に通うのも、友達と遊ぶにも保護者の送迎が必要で、学校以外でも、同年代の子供と関わる機会が少ない傾向にあります。

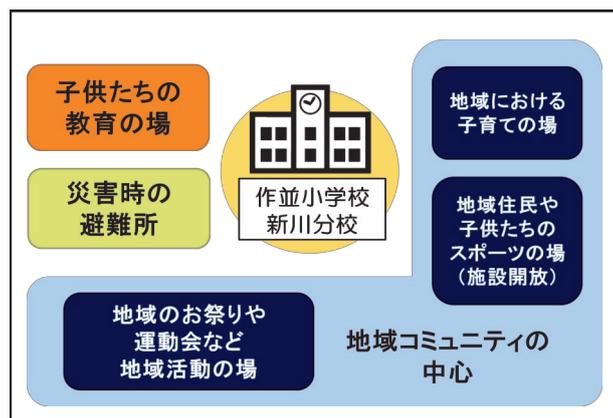


地域における作並小学校・新川分校の役割

学校は、子供たちの教育の場であるとともに、地域コミュニティの形成にも大きな役割を果たしてきました。

その地域コミュニティも、少子高齢化に伴い、地域活動の低下という問題を抱えています。これからの地域を担う人材として、子供たちへの期待が一層高まります。

将来の地域の中核を担う子供たちの成長のため、これからの子育ては、地域全体で考えていく必要があります。



(2) 意見交換会（1月23日）における保護者の意見

説明会では、平成30年1月23日に開催した「作並小学校区町内会役員及び作並小保護者との意見交換会」における保護者の意見を紹介しました。以下は紹介した内容の一部です。

これからの時代を生きていくために

学習面に関しては、人数がいて競い合うことができるのが大事だと考えます。昔と違って、これからの時代を生きていく学力を身に付けなければならない時代だと思います。

学校行事の役割から学ぶこと

私も作並小を卒業しましたが、昔は行事の際に役割を与えられていました。人がいれば、行事の際に役割があつて、互いに協調し合い、個々の役割の大事さを学べると思います。

友達のいる環境

学年に児童が一人だけだと不安なことが多く、子供からは作並小学校には行きたくないと言われていました。普通のことが出来る人数がいた方が、子供は精神面でも成長していくと思います。

早期の教育環境改善を目指して

作並小学校の児童の教育環境及び精神面での不安について、PTAで何度も話し合いを行い、「いま子供たちのことを一番に考えて行動すべきである」という結論に至りました。

苦渋の選択ではありますが、現在作並小に通っている子供たちの教育環境を早期に変えるためには、統合してプラスになる面を増やすことだと思います。

この地域に住み続ける

私たちがこの地を選んで住んでいるのは、ここが好きで住んでおり、子供たちにもここを好きになってもらいたいと思うからです。子供たちが成長しても、安心して子育てや仕事をしながら、この地域に住み続けたいと思ってもらえるような未来への一歩となることを、私たちは願っています。

今まで同様もしくは今まで以上に、地域の行事への参加・運営などに積極的に携わりながら、子供たちの将来のため、地域の皆様と共に、今以上により良い地域づくりに貢献したいと考えています。

(3) 今後の進め方について

教育委員会では、子供たちのより良い教育環境、成長を第一に考え、これからの作並小学校のあり方を皆様と話し合っていきたいと考えております。大切な話し合いの場と考えておりますので、皆様に委員を決めていただき、意見交換を重ねながら進めてまいります。

- ◆第1回 作並小学校に関する地域懇談会 開催日時：7月4日（水）18:30～ 会場：作並小
- ◆懇談会の委員の人は、町内会長、PTA会長にお願いしています。また、作並小学校区内にお住まいの方は傍聴できますので、ご希望の方は直接会場までお越しください。

2. 主なご質問とご意見

出席した方のご質問、ご意見の一部を紹介します

Q：仙台市内の学校数が平成25年頃からやや減っているのはなぜか。

A：「仙台市立小・中学校の一定規模確保に向けた方針」に基づき、地域の皆様と話し合いを行い、その結果、平成25年3月に1校が閉校しました。

平成27年3月には、方針に基づき話し合いを行った1校、そのほか児童数が著しく減少した小学校で保護者と地域の方々が独自に話し合いを行った1校が閉校しています。

また、東日本大震災で被災した小学校2校が平成28年3月に、1校が平成29年3月に閉校しました。以上6校が平成25年以降に閉校したため、学校数が減少しています。

Q：地域の良さをもっと活かした教育の場を考えていった方が良いのではないか。

A：教育委員会では、学校が積極的に地域と連携して豊かな教育環境の創出を目指す「地域とともに歩む学校」を基盤に据え、教育に関する様々な取組みを推進しております。

Q：児童数が多い小学校と少ない小学校の格差が大きくなっているのを、単に統廃合で片づけて良いのか疑問。学区を廃止し、自由に小学校に入学させるという環境も考えていくべきではないか。

A：仙台市は地域コミュニティが比較的安定しており、学校・地域・保護者が一体となった子育てがなされています。また、学校を選択できるようにすると、児童生徒数が変動し安定した学校運営が難しくなる恐れがあるため、学区は必要と考えております。

Q：「地域の活性化」の取組みと、小学校の統合の問題をどのように整合性をつけているのか。

A：地域活性化の取組みも、学校の問題も、地域における合意形成までは時間がかかるものと考えております。仙台市としては、決して一方的にどちらかだけを先行して進めるのではなく、それぞれの考えを伺いながらしっかりと調整していく必要があると考えております。

Q：校長先生やPTA会長も不在だが、今回は教育委員会からの一方的な説明会なのか。

A：今回の説明会は、作並小の現状を地域の皆さんに知っていただくため開催しています。何かを決定する趣旨の会ではないため、先生や保護者の立場としての出席をお願いしていません。

意見：いつかはこういったことが起きるのかなと常々気にかけていたが、今日の説明会を聞いてとうとうそういうタイミングが来たかと残念だ。

意見：町内会としては、町内の皆さんの意見を何回も聞かなければならない。一部の人間だけで決められるような問題ではない。

意見：保護者の意見というのは本当に切実だと感じた。特に低学年の時は良いが、思春期の体の悩みなどは、同学年の同性がいなくなかなか相談できない。「学校は地域コミュニティの場所」でもあるが、「子供たちが学ぶための学校」を一番の大前提として、子供たちのために何が出来るのかということをお我々大人が考えていかなければならない。

仙台市教育局 学校規模適正化推進室

住所：仙台市青葉区上杉一丁目5-12 上杉分庁舎11階

電話：022 (214) 8432 FAX：022 (264) 4428 Mail：kyo019031@city.sendai.jp